

令和3年7月

第1回白山市総合教育会議

会 議 録

白 山 市

令和3年度 第1回 白山市総合教育会議

日 時 令和3年7月28日(水) 午後4時

場 所 白山市役所4階 402会議室

1 開 会

2 市長あいさつ

3 協議事項

(1) 特色ある教育課程を編成する学校について

(2) 学校運営協議会(コミュニティスクール)の設置について

(3) その他

4 閉 会

出席委員

白山市長	山 田 憲 昭
白山市教育長	田 村 敏 和
白山市教育長職務代理者	北 田 朋 幸
白山市教育委員	竹 内 千恵子
白山市教育委員	小 寺 正 彦
白山市教育委員	尾 張 勝 也
白山市教育委員	安 川 薫

事務局出席職員

教育部長	山 内 満 弘
教育総務課長	米 木 伸 一
学校教育課長	東 野 央
学校指導課長	日 向 正 志
生涯学習課長	北 嶋 篤
子ども相談室長	川 上 照 子
松任図書館長	中 村 泰 広
教育総務課長補佐	杉 本 俊 彦
教育総務課係長	絹 川 幸 代

傍聴者 2名

開会 午後 4時00分

○教育総務課長（米木 伸一）

定刻になりましたので、ただいまより令和3年度第1回白山市総合教育会議を開催いたします。本日の会議につきましては、飛散防止のため着座にて発言の方をさせていただきたいと思っておりますのでよろしくお願いいたします。

◎市長挨拶

○教育総務課長（米木 伸一）

本日の会議につきましては、非公開とする内容はないと考えられますので、原則どおり本日の会議を公開したいと思っておりますが、よろしいでしょうか。

○構成員

異議なし

○教育総務課長（米木 伸一）

それでは公開といたします。

開会にあたりまして、山田市長からご挨拶をお願いしたいと存じます。
よろしくお願いいたします。

○市長（山田 憲昭）

本日は、令和3年度第1回白山市総合教育会議を開催いたしましたところ、委員の皆様方にはお忙しい中、ご出席をいただき、誠にありがとうございます。また、皆様方には、平素から白山市の教育の充実、発展のために、多大なご尽力を賜っておりますことを、心から感謝申し上げます。

はじめに、新型コロナウイルス感染症については、東京都に4回目の「緊急事態宣言」が発出されるなど、全国で、感染者数の増加傾向が顕著となっており、本市においても、今月に入り80人と感染拡大し、学校現場でも感染者が確認されるなど、予断を

許さない状況が続いております。現在は、夏休みに入り、各家庭における感染防止をお願いすることになりますが、これまでの感染防止対策を今一度徹底いただくとともに、オリンピックはご家族など、普段一緒にいる方と自宅での観戦をお願いしたいと思っております。

その東京オリンピックについてであります。本市出身の3名の選手も出場いたしております。本市の教育振興基本計画の数値目標の一つとして、オリンピック・パラリンピック選手を一人以上輩出するとなっておりますが、これを大きく上回る3人が出場することは快挙であり、未来を担う白山市の子どもたちや市民に、夢と感動を、そして、勇気を与えてくれる喜ばしいニュースであり、選手の皆様が積み重ねてこられた努力に対して敬意を表しますとともに、大いに活躍されることを期待しております。

さて、本日の会議でご意見をいただきたいテーマの一つ目は、「特色ある教育課程を編成する学校」についてであります。「SDGs 未来都市」に選定されている本市が、その理念に沿って、「白山手取川ジオパーク」や「白山ユネスコエコパーク」などの、地域資源を活かした授業を行う独自教科の創設など、特色ある教育課程の編成を行うことについて、意見交換をいただきたいと思っております。

また、2つ目の「学校運営協議会（コミュニティスクール）の設置」については、地域とともにある学校づくりを目指し、制度導入に向けて調整を進めているところであり、委員の皆様の忌憚のないご意見をいただきたいと思っております。どうぞよろしく願いいたします。

○教育総務課長（米木 伸一）

ありがとうございました。

これより協議事項に移りたいと思っております。議事の進行につきましては、主宰者であります市長をお願いしたいと思います。それでは、市長よろしく願いいたします。

◎協議事項

○市長（山田 憲昭）

それでは、協議事項に入ります。本日の議題は二つあります。

一つ目は、「特色ある教育課程を編成する学校」について、二つ目は、「学校

運営協議会（コミュニティスクール）の設置」についてであります。

まず、協議事項（1）「特色ある教育課程を編成する学校」について事務局より説明をお願いいたします。

○学校指導課長（日向 正志）

（資料にて説明）

◎意見交換

○市長（山田 憲昭）

ただ今、事務局からの説明が終わりました。

このことについて、教育委員さんからご意見を伺いながら進めていきたいと思っておりますのでよろしくお願いいたします。

安川委員さんから、お願いします。

○教育委員（安川 薫）

一般的な学習も含めてなのですが、特色ある教育課程を編成する学校ということで、SDGsの理念に沿って、白山手取川ジオパークならびに白山ユネスコパークといった地域資源を活かした体験活動。そこにかかせないのは、子どもたちが五感をフルに活用して、多角的・能動的に学ぶことだと思います。子どもたちが自ら学びたいと感じるような、探求心をくすぐるような仕掛けがあるのかなと思います。それが、例えば、単に刺激的なものではなく、子どもたちの日常の中に白山市の大自然を活かした、非日常を取り入れる活動、それはもとより、白山市ならではの生活に基づいた内容についても、アクティブラーニングを積み重ねていくことも含めて活動していけたらよいのかなと思っています。そして、アウトプットとして、子どもたちが家族に話しをするというふうに、家庭を巻き込むこともしていただけるとありがたいなと思います。私も含めてなのですが、保護者の中には、白山市外、石川県外から引っ越してきた人たちが結構おられて、保護者自身が白山市のことをあまり知らないという実情もございます。それから、学校団体間の接続を見通した教育という

ところで、継続的に9年という期間をかけてそれができるということは、とても素晴らしいことだと思います。現在、義務教育課程にある子どもたちは、成人年齢が18歳で中学を卒業した3年後がそれにあたります。成人後、多くの場合は高校卒業後になると思いますが、子どもたちは、進学や就職で県外へ居住するという子どもも少なくないと思います。少しおおげさかもしれませんが、どんなに遅くても、その時期より前には、子どもたちが自分自身であらゆる選択をして、生きていく力がついているかどうかということが、とても大切だと考えています。大事な決断をするときに、それまでの経験に基づいて、考えに考えぬいた末に結論を出すということはもちろん大切です。それと同様に、本当に覚悟を決めるときは、五感が研ぎ澄まされているかどうかということも大切だと思います。日常生活、暮らしの中で、子どもたちが五感を使って多角的に、能動的な学びを繰り返し行うことで活かされてくると考えるからです。そこで活動の中に、白山市の食育についてもぜひ触れていただきたいと思います。食べることは生きることとよく言われていますが、人間食べなければ、生きてはいけません。保護者の立場として、現在、娘が通う学校でPTA活動に参加をさせていただいております。コロナ禍ということもあり、昨年度に引き続き、どの学校も例年どおりのPTA活動という部分では実施を見送ることを余儀なくされているという現状があります。その中で、今年は食育に取り組んでいます。この状況にならなければ、考えつかなかったような新しい活動内容です。活動は現在進行中で、子どもたちが各々で体験できるものになっています。新しい取り組みをするとき、ほかの事例を参考にしながら、白山市のオリジナルモデルを創造していく。これは考えるだけでも非常に楽しみなことだと思います。いろんな意見を反映しつつ、いろんな選択肢の中から、決して大人の満足で終わらないようにということも留意しながら、可能な限り仕掛けていくこと。それが、子どものもっと知りたいを引き出していく。そういった取組になることを期待いたします。以上です。

○市長(山田 憲昭)

ありがとうございました。尾張委員さんよろしく申し上げます。

○教育委員（尾張 勝也）

正直言って、これを見たときに、今まで学校をいろいろまわりましたが、私が見るに、やはりどこの学校も特に自然環境について、もっといろんなことができるのに、十分活かしたことをしていない。でも、この教科ができることによって、本当にこれはすごいチャンスだなと思っています。ただ、前に総合の時間が学校に導入されたときもそうなのですが、せっかくだいい新鮮な素材がでてきても、料理する人が下手で間違えると、生でおいしく刺身で食べられるものが、なにかソースをいっぱいつけたような、クリームをいっぱいつけたようなものになってしまう。だいたい教育界はそうだと僕は思っています。これを本当にするときには、市長、教育長も含めて、今までの概念にとらわれないような、思い切った、と言ってもめっちゃくちゃなという意味ではなく、そんなのありなの？というくらいのことをしないと、うまくいかないと思いますし、それをうまくいさせる資源というか素材が本当に白山市にはあると思います。特に、SDGsとなると多岐にわたりますけども、ジオということになると、その中で自然のほうに集約されていく。だいたいSDGsにしても、持続可能というのはいろいろなものがありますが、やはり自然、あるいはエネルギーが持続可能ということが本当に基本だと思いますし、これはものすごいチャンスだと思いますので、ぜひ進めていただきたい。その時に、さっき言ったように注意してほしいのは、結局ただのお勉強になるのではなく、学びとなるようにしてほしいということです。その違いが私の中にはすごくあって、安川さんが五感ということを書いてくださいましたが、知るだけではだめです。いくら頭につめこんでもだめです。体験して、自分の内側から感じとることができる授業ができれば、本当にすばらしいなと思います。ただ、学校がこれによって負担増になって、先生方はただでさえ忙しいのに、なおさら忙しくなるということだけは避けたいので、そこは知恵を出せばいいと思います。あと、一つ言いたいのは、ジオパーク、ユネスコエコパークなどいろんな事で、ふるさとへの愛着を持つということに終結するのではなく、もっと大きな、極端に言うと人間というのは、自然界のほんの一部の存在なんですよということを、私は自然体験や自然にかかわることで、子どもにも大人にも感じてほしい。そういったベースがあって、ふるさと教育なり、いろんなことが出てくると

思うので、もう一度言いますが、自分たちは自然の一部、地球に住む一つの種類の動物、極端ですけれどもそこをみんなが感じられるようなことを目指して、この教科をぜひ進めていただきたいと思います。

○市長(山田 憲昭)

ありがとうございました。では次に小寺委員お願いします。

○教育委員(小寺 正彦)

私は、教育課程の編成ということと、小中一貫教育ということ2つに分けて考えてみました。まず教育課程編成で、学校訪問で気が付いたこと等を含めながらお話しします。小学校1年から中学3年までのジオ科、もしくはSDGs科など、独自教科の指導資料を市の教育委員会で作成すると、本当にいいものができるのではないかと思います。そして次に、生活や総合的な学習の時間、特に総合科の各学校の授業を見ていて、使用する資料などはすでに各学校で行なわれている内容がたくさんありますので、それをまとめれば、ある程度の資料が完全にできると。そして市内の教員の方、または学者の方と、すぐに尾張委員がイメージされますけれども、一緒に独自教科の資料を順番に全部作って行って、そしてその中には、地理、歴史や地学、生物関係すべて、白山市には産業がたくさんありますから、産業や文化を含めると、本当に参考資料としていいものができるのではないかと思います。そして、白山市とよく似ているところで、滋賀県の県教育委員会で出している「琵琶湖学習」を見ていたら、本当に参考になるなと思いました。次に英語教育、活動を重点的に見たんですけれども、進めている市町が多いんですけれども、白山市の場合は、それに独自教科の内容と結びつけると、白山市の特色がものすごく出せて、本当にいいのではないかと思います。そして次に、小中一貫教育ですけれども、義務教育学校になるのか、小中一貫校の違いがはっきりわからなかったのですが、調べたところ、生徒としては、小学校と中学校が別々の学校のまま同じ校舎で学習し、周囲からは一つの学校に見える。または、小中の校舎が離れていても、教育内容が一貫し、教員の交流もある学校として私自身理解しました。どちらになるか、大切なところは、義務教育学校の校長は1人、そして、

一貫校は校長が1人または2人かいるのですが、一貫校の場合、校長を1人にすると、減らした人数を教諭として補うことができるのではないかと考えたのですが、そのことについて教えていただきたいと思います。そして、また教諭として補うことができれば、授業ももっと厚いものがだせるかなと思いました。また、既設の小学校と中学校を一つにする場合、マイナス面ですけれども、小学校文化、中学校文化が持ち込まれたら、小中の教員が対立するのではないかと思いました。そこで、全教員に小中の兼務辞令が必要になってくるのではないかとも思いました。そして、教科指導や部活指導の相互の乗り入れを増やすことが大切ですが、外国語科の教員が、小学校の英語を手伝うなど、教員の働き方としては、大きな変化が先生方にあると思います。その教員の理解を得ることと、小中一貫とは考え方を異にする先生が必ず出てくると思います。そういった先生についての処遇、要するに異動も含めてできるようなシステムも作っていかねばならないのではないかとも思いました。あと、次に役割分担や学校行事、何をするにしても、小中が一緒に一つの学校ということが大切なことであり、一番いいことは、全教員が全児童や全生徒を見ることができるということは、子どもたちにとっては本当に有益なことになるのではないかと自分なりに思いました。以上です。

○市長(山田 憲昭)

ありがとうございました。それでは竹内委員お願いします。

○委員(竹内 千恵子)

私事で恐縮なのですが、40年ほど東京に住んでいる妹がおりまして、その東京生まれ、東京育ちの友だちが妹に、石川県に行くのだけれど、白山比咩神社を知っているかと聞いたそうです。私と妹は鶴来の端っこで生まれ育っているのですが、白山比咩神社はホームグラウンドのようなものでした。それで、どうしてと聞いたら、すごいパワースポットで、素晴らしい所なんだということで、その友人はレンタカーを借りて、石川県を回るのを非常に楽しみにして、白山比咩神社も楽しみにしていたということでした。コロナ禍の前ですから、帰ってきたら、大変すばらしかったという話をしていたと。その時

に、私と妹は、あまりにも身近であったので、本当に私たちが住んでいたところを、理解して評価していたのかなということをやはり思いました。学校訪問もさせていただいて、よく尾張委員さんに、この子たちは自分たちが住んでいるところが大変恵まれているということを実際に理解しているのだろうか。これが当たり前だと思っているのじゃないかなというお話は、時々させていただいています。そんなことを考えた時に、今回のこの取組というのは、子どもたちがそれを本当に身につけるための仕掛けになるのではないかと。これまで、いろんな式辞等にふるさとに愛着をもって云々という文言がたくさんありましたけれど、それはこちらがお願いして子どもたちが持つものではなくて、いつの間にかそれがきちっと子どもたちの中に身についていくものなのではないかと思います。それが、今回の取組を通してできたらいいかなと思います。教育について、国際という言葉があったり、情報という言葉があったり、環境や多様性という言葉があったりするのですが、そういうものに白山市は振り回されることなく、きちっと自分たちの住んでいるところはこんなところなんだということを見習いに教えていただいて、結果的に、子どもたちがこの土地に愛着をもつ、そしてその時に、自分たちのところがナンバーワンということではなくて、やはり多様性で、ほかにも文化があるということ、ほかの人たちとも協力しないといけない、協働ということ、そういったことを学ぶ、そういう時間にしていただきたいなど。素材は本当に白山市にはあると思います。だけど、それをうまく使って、何をしなければならないのか、どういう子どもたちを育てていきたいのかということはきちっと踏まえて、これからやって頂きたいと私は考えました。以上です。

○市長(山田 憲昭)

ありがとうございました。それでは北田委員お願いします。

○委員(北田 朋幸)

私も特色ある教育課程を編成する学校についてということで、白山市の特色とは何かとなったときには、やはり自然ということが第一に出てくると思います。ただ、今、小学校の総合的な学習の時間の70時間という時間が地元を

知るために必要な部分であって、今、ICTを活用する授業を中心的にやっているということは、たとえば、美川とか松任でも海辺の方の生徒たちが、現状の白山の状況を、多分ドローンでとってあげるだけで見られると思います。いろんな地域のいいものを、やっぱり授業で見れることによって、あんな所、こんな所に行ってみたい、ああしたい、こうしたいということが分かるような時間をとってあげることが一番大事かなと思っていて、子どもたちが地元にながら白山に登ったことがないとか、海で泳いだことがないとか、そういったことがあるのはおもしろくない。いろんな所でいろんなことを体験できるような、白山市を身を持って感じるという部分が大事かなと。地区別でいろんな学校があるので、地区のことを研究し、白山市の全学校がそれをうまくリンクさせながら、総合学習的なことができるものすごく面白いと思います。SDGs科なのかジオパーク科と言っていいのか、自然科という形でそういうことを勉強して、ふるさとをもっと知らないといけない。昨年、尾張さんがしてくれた県の教育委員会の発表の中で、私たちが見たことがない風景があって、それを見るだけでも感動したので、そういうものを子どもたちに沢山見せてあげたいと思います。小中一貫型小中学校について、段々と児童生徒数が減ってくるのと、各小学校においても専科の教科を見るような形になっていく上で、白山市では白嶺小中学校が一貫校になっていると思うのですが、例えば、施設分離型であれば、美川は3小学校が美川中学校の一つの中学校に集まるということで、そこを施設分離型の小中一貫校とすれば、小学校3校で各教科を研究できるわけで先生の負担も3分の1になる。いろんな専門の先生方がいれば、それだけ回れるようになり、先生の負担はそういう形にした方がいいし、小学校の先生でも、中学校の部活を見られるようなことも考えられると、かなり利点が多いのではないかと考えています。また、河内小学校と鳥越小学校が鳥越中学校に集まるし、美川の3小学校が美川中に集まる施設分離型が考えられるが、鶴来方面に関しては、明光小学校が鶴来中と北辰中の両方に別れてしまうので少し難しいのか知りませんが、出来る所からやっていくと、まとまったいい環境で子ども達が同じいい授業を受けられるなど有意義になるのではないかと思います。

○教育長（田村 敏和）

私が今年教育長になる時に、最初に白山市の教育大綱を見させていただきました。その中の基本理念として「ふるさと白山市を愛し、誇りに思える人づくり」とあり、要するに白山市をあげてこういう人を作っていきたいということが大事なんだと肝に銘じた次第であります。そのための基本目標として「郷土愛を育む教育の推進」「確かな学力の形成と教育環境の整備」「健康な心と体を育む教育の充実」と3本の基本目標が書かれています。その中で最初にあります「郷土愛を育む教育の推進」というのは、これからの社会の中で非常に重要であると思っています。そこに書かれているものを読みますと、「郷土の歴史や先人たちの功績、地域性に富む伝統文化や産業を学ぶことを通して、ふるさとへの理解と愛着を深める教育を推進します」と書かれています。また、白山手取川ジオパークや白山ユネスコエコパークが持つ地域資源を利活用していく中で、子ども達の教育を推進することや国際化、高齢化に対応して笑顔あふれる街づくりを推進すること、学校、家庭、地域が連携、共同してふるさと白山市に誇りと愛着を持つなど、そういう人材育成について書かれています。このために学校は何をしているのかと考えた時に、総合的な学習の中で、例えば先人たちのことを学んだり色々な事をやっていますが、どちらかというと単発でやっていて、その時その時に感性として感じたものが小学校、中学校として一本筋が通って、しっかりと育てられる形が取れないかいつも思っています。そういう中で、先ほど事務局から話が出ました、白山市の子どもならではの、特に白山手取川ジオパークやSDGsの取組が一番大きな枠組みとありますが、そういうものを軸として何か子どもたちが学んでいけることがないかと非常に強く感じています。先ほどから教育委員の皆さんも色々話をさせていただいておりますが、学力といったときに、単なる知識、理解でテストの点数ということではなくて、学びに向かう力、要は将来に渡って持続可能な学力というのは、例えば、「何でこれはこんな色をしているんだろう。何でここにこういうものがあるんだろう。安産（やすまる）川のトミヨのように、昔はいっぱいいたものが何で少なくなったのだろう。」と考えた時に、白山のことや地下水のことなど色々学ぶことが当然沢山でてくるわけです。なぜ伏流水が元々旧松任地域からずっとあったものがなぜ少なくなったのだろうか等、

そういうものを自分が思って学んでいくことが本当の学力に繋がっていくのだらうと。それが将来に渡っての郷土愛を育むことにもなっていくのではないかと考えています。こういった形でやれるかは別として、そういうものをしっかりやっていく教育をしていかないといけないと思っています。私からは以上です。

○市長(山田 憲昭)

事務局が出した特色ある教育活動について、総称的にはSDGs科みたいな話になるのですが、SDGsは17項目あって、環境と社会、経済という大きな枠組みがあるものだから、ジオパーク、エコパークはSDGsの一部であり、SDGsとってしまうと経済など色々なことが入ってきた時に、子どもたちに馴染むのかという部分があるという気がします。かといって、SDGs精神を忘れてはいけないし、白山市の特色といえば、ジオパークであり、うまくいけば世界に認定されるまでできたのですが、それでいくのかどうなのか、自然だけをするのか、もっとSDGs全体を子どもたちに広めていくかたちにするのか、そういう問題がある。その辺りはどのように考えますか。

○学校指導課長(日向 正志)

当初、事務局として考えていたのは、ジオということで進めていく方がいいのではないかとということでした。しかしながら、市長が言われたように、包括しているのはSDGsであるということも含めて、幅広くSDGsということで資料は今回作らせていただきましたが、ピンポイントに絞るという方が学校にとってはやりやすい面もあるのかなという気はしています。

○市長(山田 憲昭)

カリキュラムは作りやすいということですね。

○委員(竹内 千恵子)

1、2年で仕上げようとするとうSDGsにまで広げると大変だと思いますが、

先程の話のように9年間できちっとやるということになると、かなりの時間は確保できて、網羅的にできるのではないかと思います。

○市長(山田 憲昭)

SDGs そのものは、2015年に始まって2030年までの15年で一区切りとなります。それまで9年あるので、学年に応じてカリキュラムを組むのか、全体としてやっていくのかなど考えてみるということですね。

○委員(竹内 千恵子)

広く入って行って深く進むとか、色々なやり方を考えて色々な知識を持ってもらった方が、本市の子どもたちの文化的な土壌が広がる感じはします。

○市長(山田 憲昭)

我々からするとSDGsを広げて欲しい。しかし、そればかりでは散漫になってしまうことから、ピンポイントがいいのかとも思ったり、悩ましいところでは。

○教育長職務代理者(北田 朋幸)

人間がクヨクヨしたり悩んだりした時に、大自然に触れ合えることで気持ちがとても大らかになれる。そして、子どもが興味を持つものは何かとなった時に、例えば、魚釣りも昔は生きていくために必要な手段であったものであり、子どもたちは自然の方が入りやすいので、その辺から入って行って、数年経って、色々なコーディネートできるような方が現れて、どんどん導いて行って、それが例えばSDGsの中にある、この部分とこの部分とこの部分というようにテーマを広く探究していく、そして全体がいずれ関連してつながるような形になればいい。初めから全部やるのは無理なので、その部分から入っていった方が、子どもの興味を惹く上では有意義ではないかと思います。

○市長(山田 憲昭)

どのように積み上げていくのが大事です。

○委員（竹内 千恵子）

色々な子どもたちがいるので、ジオで自然科学が取っ付きやすい子がいれば、社会科学で経済が取っ付きやすい子など色々いるので、幅広く色々な知識を学び、その学びを自分たちで深めていただいた方がいいのではないかと思います。

○市長（山田 憲昭）

多様性からすると、絞らない方がいいということは確かにその通りですが、自然の中での五感とか自然に触れて欲しいとか、そういうことがあつたりもする。SDGsであれば幅広いから何でも受け入れることができる。それだと特色に欠けるということになるとジオになる。ただ、ジオだけだともったいない。そういう自問自答があるのではないのでしょうか。

○教育長（田村 敏和）

小学校の小さい子であれば五感とか、ジオという視点から入って行って、学年が上がってくると環境の問題とか色々なことに広がっていくと思いますので、いわゆるSDGsの理念に広がっていくのではないか。ジオかSDGsではなくて、小学校から中学校までの9年間を考えてジオからSDGsの理念に広がるようなイメージを持ったらどうかと思います。

○市長（山田 憲昭）

SDGsでも17項目で、例えば、ゴミの無料化を進めるために、みんなでもったいないという運動をやっていくことがSDGsであるということを知ってもらえるということが大事なことなので、そういうことも含めて、まず学校でどこまで対応できるのか、どういうテーマを学年毎などでできるのかをやっていけば収まりがつくのかと思います。

○委員（尾張 勝也）

ジオだけにすると学校が窮屈かなという気がするので、SDGsはいいと思いますが、SDGsでやってしまうと17項目のうち、この学校は貧困を

テーマにやろうとか、学校毎に選んでやってもらってもいいけれども、コンセプトがぼやけるような気がします。最初はジオをメインにやりながら、発達段階に応じて少しずつ広がって繋がっていくという方が、学校もやりやすく、子どももわかりやすいと思います。また、子どもは体を動かして自然に触れ合っただけで活動することがすごく減っている。特別な何かをするのではなくて、1週間に2時間ぐらいは、そういうことを当たり前子ども達ができるような時間にもしてほしい。遊びは学びだと思っているので、学びにつながるような遊びも含めたSDGs科にしないと違う方向にいつてしまう。斬新な考え方と、柔軟な考え方を持ってうまくやると面白くなると思います。最初からいいものはできないので、たたき台を作って学校で実践して整理、模索しながらやっていくなど長い目で見ていく必要があります。

○市長(山田 憲昭)

特色で言えば、エコ、ジオ、SDGsの3つをやっているのは日本で白山市だけであり、この3つをどう活かしていくのかも大事な視点です。それをうまくカリキュラム化する中で受け入れられていくと、それがひいては、ふるさと白山ということになると思います。いろんなことが勉強できるし、その素材があるということなので。

○委員(尾張 勝也)

個人的な希望としては、白嶺が一番いいと思います。白嶺でなくてもいいですが、山手の学校で、特に特化したような、その教職員みんなが自然のことが大好きな人ばかりがいるようなドリームスクールをぜひ白山市で作っていただいて、越境入学がどんどん来るような夢を見たくくなりました。

○市長(山田 憲昭)

それと同時に、学校間の連携をどうやれるのか。例えば、ジオだと山の方が身近に感じるから特化すればいいというけれども、美川でも海もあつたりするわけなので、その連携をどうやれるのかということも考えなければいけないと思います。

○委員（尾張 勝也）

どこも全部同じようにいくというよりも、先に走って、みんなを引っ張っていく学校があってもいいと思います。そして、そのノウハウを交流しながら広げていく。一緒に積み上げましょうということは難しいと思うので、まず、しやすい所が先に走って、それをフィードバックしていくこともあったらいいと思います。

○市長（山田 憲昭）

白山市の特色や、地域の特色をどう関連づけるかが大事ですね。ただ、美川にしながら白山の自然に親しもうととっても時間的に余裕もない部分もある。その難しさはある。ただ、山手の一部だけが特色を持ってやると、平野部の子ども達を取り残されたと思ってもいけないし。

○委員（竹内 千恵子）

行政が何かしようとした時に、パイロットスクールみたいに先頭に立って走っていく所に、まず資本や人材を投下し、その経験を活かして、他の学校に還元するというのはよくある手法であり、尾張委員はそれを言われていたと思います。山も海も川もあって、どこからでもできるということは贅沢な悩みだと私は思いました。

○市長（山田 憲昭）

タブレットで白山市全ての学校で同じ教育をやろうと思えばできますね。

○委員（尾張 勝也）

そこで私がこだわるのは、安川さんも言っていましたが、五感ということ。タブレットだけだと、目と耳しか使わない。感覚が偏らないように、タブレットを使いながらも、模型でもなんでもいいけれども、それを使って匂いがしたり、触れたり、食べたりできるよう五感を大事にしてほしい。

○市長(山田 憲昭)

でも、そのことによって行ってみたいという思いを持って、それがきっかけに遠足などみんなで行くということもあるのではないかな。

○委員(尾張 勝也)

タブレットでやったからいいということではなく、あくまできっかけや動機付けであって欲しいと思います。

○市長(山田 憲昭)

カリキュラムを作ってやってみれば、いろいろなことが出てくると思います。

○教育長職務代理者(北田 朋幸)

生涯学習課では子ども会議をやっていますが、例えば、中学生が互いに地域自慢を持ち寄って、気になるところにみんなで研修旅行に行く。意外と山手の人は自分たちの持っている山の自然の良さに気づいていない部分があったりして、浜の人間が山に行った時に、山の自然の良さを発見することが多々あるので、そういう交流ができると面白いと思います。

○市長(山田 憲昭)

世界ジオパークになる時に、国際委員会から専門家が来て言ったことは、獅子吼から見る手取川の扇状地は、世界級だと。こんなに綺麗に学問的に見えて、ちゃんと地形を活かしているというのは世界級だと言われたことにびっくりしました。だから、われわれの持っている資源をあまり正しく評価していないという部分はあるということです。少なくとも特色を活かすということでは皆さん一致しているので、後は内容をどうするのかということです。

○教育長(田村 敏和)

白山市の特色を学校でどう活かすのかということをやっていかなければならないということです。

○市長(山田 憲昭)

そうですね。ではよろしいですか。

○委員

はい。

◎協議事項

○市長(山田 憲昭)

では次に、協議事項（２）「学校運営協議会（コミュニティスクール）の設置」について事務局より説明をお願いいたします。

○学校教育課長（東野 央）

（資料にて説明）

◎意見交換

○市長(山田 憲昭)

ただ今、事務局からの説明をいただきましたが。どなたが意見のある方はいらっしゃいますか。

○委員（小寺 正彦）

協議会の委員には、民生委員、町会の学校関係担当、公民館関係ほか地域で活動されている方があて職で選ばれることが多いと思います。そうした場合、小学校の協議会に地域の主だった人が先に集中してなると思います。その活動が定着してしまっていて、その後から協議会の委員を人選しようとしたら、もう全て小学校の方へ主だった人がいってしまっていて、中学校の委員の人選に大変苦勞するのではないかと思ったわけです。そして、もう一つは、小学校だけではなく、中学校区での一つの運営協議会を作るところがあってもいいのではないのでしょうか。大きくまとまったところで作ってもいいのではないかと自分

なりに思ったことが一つ。そして、委員には学校から校長先生だけになるのではなくて、地域と連携する担当というか、教頭とか管理職の先生ではなく、よく分かっている指導の先生、教員に入ってもらったら、事案もスムーズに進んでいいのではないかと思います。以上です。

○市長(山田 憲昭)

学校評議員というものを、発展的に、名前を変えながら地域を巻き込むものにしようということですね。まだ、規則も何も決まってはいませんが、学校運営協議会が設置されている学校とえば、一番わかりやすいけれども、それをコミュニティスクールという、それはなんだということになる。学校評議員をもっと時代にあったものにしようという方がわかりやすい。それと、もちろん小学校ばかりではなく、中学校もありますので、それも大事な話です。

○教育長(田村 敏和)

たしかに、今やっている学校評議員をもう少し広げて、地域のいろんな事ができる人を入れていって、地域との連携を深めるという発想になれば、まだ分かりやすいかもしれませんね。

○委員(竹内 千恵子)

ただ、機能のところ、学校評議員というのは、個人として学校へ意見が言える訳ですよ。校長先生は、聞くか聞かないかは別に構わない。それに対して、運営協議会というのは、合議制によって、校長が作成する学校運営の基本的方針を承認する。承認する人もいれば、いやだという人が、この中に現れた時に、とても難しいことになると思います。確か、評議員は、学校長がお願いしていたと思います。だけど、この運営協議会は教育委員会が人選するのですか。

○学校教育課長(東野 央)

人選は校長先生にお願いします。

○委員(竹内 千恵子)

でもこれは、とても人選が難しいと思います。意見具申は人事まで、採用まで言うてくるわけですから、かなり評議員とは違うなと思います。評議員制度の検証がまだ終わっていない。何が良くて、何が足りなかったか何を生かして、何を变えないといけないか、何をすればもっと学校運営が活発になるのかという検証を学校でやっていただきたいと思いました。

○市長(山田 憲昭)

それが終わらないまま、ただ変えて、国が言っている通りにやると、收拾がつかなくなる可能性はあります。

○委員(竹内 千恵子)

機能としては、権限が非常に重くなると思いますが、運営協議会が承認しないとなったらどうしますか。

○学校教育課長(東野 央)

先進地にお聞きすると、どちらかという学校の応援団になりたいというところが多いので、人事の関係でもそういった話題はあがらない。これの使い方とすれば、逆にポジティブに考えれば、例えば、もっと部活動を強くしたいのでこの先生を呼んでほしい、そういった使い方もできます。人事関係について明記するかしないかは任意ですので、実際、県内3市で明記しているのは1市だけです。

○教育長職務代理人(北田 朋幸)

多分、校長先生によって変わると思います。校長先生が選んで運営協議会ができて、2年ほどたって新しい校長先生が来て、なんだあの人はなった時に大変なことがおこる。学校の応援団という部分に関して、委員さんたちがいかに校長の方針をしっかりと受け止めてくれるかという部分がはっきりでてないのだめなのと、人事案件に意見具申できるということは、保護者から聞いて、あの先生はだめだからどうにかしてと言ったりすることとは別の話です。

○市長(山田 憲昭)

校長が変わった時に、運営委員を私の方で選びますとなった時に、地域はどうなるか。ここはものすごくデリケートだと思います。

○委員(竹内 千恵子)

教育委員会に意見具申できるわけですから、学校で決めたことを教育委員会に意見具申を言われてもというかんじにはなりません。

○教育長職務代理者(北田 朋幸)

この機能を全部書かれると、委員になった人が、市教委をとばして県教委に行ってしまう。そうすると困る話になる。

○学校教育課長(東野 央)

上の2段は明記しているところが多いのですが、3段目は明記しているところと、していないところがございます。

○委員(尾張 勝也)

自分が学校にいたのは昔なので、今の学校は違うかもしれませんが、PTAの方と仲良くやればいいんですけど、学校は、もともと学校だけで何かしたいというようなところがあるように思います。この運営協議会の文だけみたら、なんだか学校を締め付けるような嫌なものかと思いましたが、教育長から学校応援団だと聞いて、納得しました。文だけ見ると、応援団という雰囲気ではない。出すときには、応援団だとわかるように出さないと、学校が変に警戒すると、自分は嫌だなと思いました。

○市長(山田 憲昭)

その通りです。公民館の協働のまちづくりも、白山市の公民館運営は全国でもトップレベルなのだけれども、もう一段進んでやりましようと言っている。変えるときに、今やっていることがだめなんだという発想になってくると、だめなんです。

○委員(尾張 勝也)

私は吉野谷に社会教育主事で行って、教員から社会教育に入ると、目から鱗というか、やはり学校にいと、学校は学校だけでなんとかやっているという勘違いをする。でも実際には、地域の方はみんな学校のことを心配している。いろんな人に支えられているということが、吉野谷に行ってわかりました。社会教育主事という制度があるときは、私たちみたいな教員が社会教育と、地域と、学校をつないでいました。それが全部ひきあげになってしまって、公民館は公民館、学校は学校、地域と学校と家庭の連携と言うけれど、地域と学校というのはゲストティーチャーか誰かが来てくれればいいのですが、何かつながっていない気がします。これをきっかけに、本当に学校と地域がつながる、あるいは学校の先生方がやっぱり地域に支えられていたんだと地域に感謝するようなきっかけになり、地域みんなで子どもを見ていこうという雰囲気になったらいいなと思っています。

○市長(山田 憲昭)

ある意味では、文科省の言うことが全て正しいというわけではありません。だいたい、コミュニティスクールという言葉自体でこんがらがってしまう面もある。みんなで、地域で学校を支えていこうという話に持っていければいいだけです。

○教育長(田村 敏和)

名前を何か考えたらいいかもしれませんね。

○委員(尾張 勝也)

名前を変えたらいいと思います。白山市は通称〇〇と呼びますということでいいので。本当にコーディネーターの人がとても大事だと思います。

○教育長(田村 敏和)

さきほど尾張さんが言われましたが、もともとは社会教育主事という方がいて、コーディネートをしていました。旧松任市の時もいて、地域連携をどう

するかやってたんです。それがなくなって、地域との連携を今は学校それぞれでしていますので、学校の先生が電話して、こういうことで来てくれませんかということが結構大変なので、それをまとめあげましょうという発想なんですけど、実際やっているところに聞いたら、職員の採用・任用に関することをしているところはないです。

○市長(山田 憲昭)

最初だからないので、しばらくして、できるからしようとなったらたいへんということです。

○教育長(田村 敏和)

そこは気を付けなければいけないですね。

○教育長職務代理者(北田 朋幸)

コーディネーターをつくるとなると、どうしてもお金もかかります。

○市長(山田 憲昭)

そこを国の制度に乗ってやるのか、市独自のものでやるのかということもあります。

○学校教育課長(東野 央)

今のところ、国費の応援はないです。

○委員(尾張 勝也)

報酬は出してほしいと思います。

○学校教育課長(東野 央)

評議員さんもいますので。ただ人数は増えます。

○教育長職務代理人（北田 朋幸）

これは人数はどうなりますか。

○学校教育課長（東野 央）

能美市は15人、金沢市15人、かほく市8人です。いろいろな方のご意見をお聞きして、すすめたいと思います。

○教育長職務代理人（北田 朋幸）

あまり多すぎても大変ですよ。多分、10人未満でいいと思います。各町に公民館はじめいろいろな団体があるでしょうが、文化継承できる団体が必要だし、そのへんを考えた時に、各地区で人数差が多分であるでしょうけれど。

○学校教育課長（東野 央）

学校の規模にもよります。

○市長（山田 憲昭）

あて職にしておかないと、大変だと思います。

○委員（竹内 千恵子）

任期はどれくらいになるのですか。

○教育長職務代理人（北田 朋幸）

校長先生が変わるまでではないでしょうか。

○委員（竹内 千恵子）

校長先生が変わって、学校方針が変わった時に、地域の方たちが前の方がいいとなったら、校長先生がやりにくくなるので、やはり人選を考えないと、1～2年で変わる校長先生だったら、協議会の人たちの方が学校のことを分かりすぎると、やりにくいだらうという感じがするので、任期も考えないとまず

いかなと思います。

○市長（山田 憲昭）

任期が2年等になっても、再任は妨げないとなったら。

○教育長職務代理人（北田 朋幸）

本来は、学校長の教育方針を承認しないといけない。

○委員（竹内 千恵子）

承認しないとなったら、どうなるのですか。

○教育長職務代理人（北田 朋幸）

運営方針を変えないといけない。また、学校の応援団なので、やはりトップが変わったら、トップに合わせないといけないという話もあるのではないかな。

○市長（山田 憲昭）

方針というのはとても大事なことであるけれども、今言うように、地域と学校とをつなげるということを考えると、大事なことはもっとちがうところにある気がします。

○教育長職務代理人（北田 朋幸）

たいしてそんな問題はおこらないのかもしれないですね。

○学校教育課長（東野 央）

ほかのところに聞いていると、今のところは無いようです。

○教育長（田村 敏和）

今のところは無いけれど、しばらくすると出てくるのではないのでしょうか。

○委員(尾張 勝也)

発言力の強い人が出てくると、なかなか大変になるかもしれない。

○学校教育課長(東野 央)

知りすぎてということがあるかもしれません。

○市長(山田 憲昭)

極端なことをいうと、先生のOBが入ってくる場合も多いでしょう。制度を変えることの目的を終始徹底していたほうが本当はいいですね。変に細かく、あれができる、これができるというと大変になりますね。

○学校教育課長(東野 央)

いろいろな団体等のご意見をお伺いしながら、学校にも相談しながら進めたいと思います。

○教育長職務代理人(北田 朋幸)

地域によって特色もあるでしょうから。

○市長(山田 憲昭)

とりあえず、美川小と蕪城小がすることは決まっているので、そこを見ながらですね。

○教育長(田村 敏和)

慎重にゆっくり、様子を見ながらですね。

○市長(山田 憲昭)

そうですね。

◎その他

○市長（山田 憲昭）

それから、「その他」成人式についてお願いします。

○生涯学習課長（北嶋 篤）

成人式についてですが、令和2年度、第1回 総合教育会議において、令和4年度以降の成人式の実施時期や対象年齢等について議題としたところですが、今後は市議会へ報告し、理解が得られましたら、ホームページ等で周知していきたいと思います。以上です。

○市長（山田 憲昭）

市議会でも少し、議論したいという意見がありますので、みなさんで決めもらったけれども、市議会でも、それで良いだろうということを議論してもらおうということ。きっとそうなるだろうと思うのだけれども、ここだけの決定で正式にはならないと言うか、議会でも議論させてほしいというのがありますから、そこを了解してほしい。論理的には、20歳になって、働いたり、いろいろな人が集まって、お祝いしようというのが一番いいと思います。

○教育長職務代理者（北田 朋幸）

成人の枠でも、できない成人もいるわけじゃないですか。例えば、お酒を飲んだり、煙草を吸ったりしてはだめだという成人もいれば、それがいいよという成人もいるわけで、それを見た時に、なんでもできる成人が成人かなと思います。

○市長（山田 憲昭）

20歳というのは古くさいかもしれないけれども、飲酒等を含めて、そこが一番整理されているかなとは思いますが、一応、議会としても議論したいということがありますので、そこはご理解いただきたいということです。それでは、事務局からその他何かありますか。

○教育総務課長(米木 伸一)

特にありません。

○市長(山田 憲昭)

今日は大きな問題が2つありました。せつかくですから、特色ある教育課程はうまくカリキュラムにのせながらやっていただきたいということと、学校運営協議会については、モデル校をしっかりとやりながら今後の推移を見守っていくということで終わりたいと思います。ありがとうございました。それでは、進行を事務局に戻したいと思います。

○教育総務課長(米木 伸一)

本日は貴重なご意見どうもありがとうございました。本日協議いただきました議題につきましては皆さまからのご意見を参考に検討していきたいと思えます。これを持ちまして、令和3年度第1回白山市総合教育会議を終了いたします。どうもありがとうございました。

閉会 午後5時32分